

# クローズアップ NGO・NPO

非営利特定活動法人

## フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

子ども参画による国際協力活動～子どもは世界を変えられるか～

### フリー・ザ・チルドレンとの出会い

カリフォルニア州にあるNGOでインターンをしていた当時25歳の中島（フリー・ザ・チルドレン・ジャパン代表）は、ある時、フリー・ザ・チルドレン（以下FTC）という国際協力団体を若干12歳で設立したカナダ人の「クレイグ・キールバーガー」少年についての記事を雑誌で読み、大きな衝撃を受けました。

クレイグは児童労働廃絶のため活動していたパキスタンの少年「イクバル・マシー」がわずか12歳で殺害されたという記事を新聞で読み、同い年の少年が強制的に働かされている現状や結果的に殺害されたことを知り、子どもとしてこの問題を見過ごすわけにはいかないという思いから、クラスメイト数名で団体を設立したのでした。

「子どもに本当にできるの?!」という疑問が中島の心の中に浮かびましたが、記事を読み進めるうちに、この問題に真剣に取り組むクレイグやその仲間の姿に感銘を受け、応援メールをカナダのFTC宛に送信しました。すると、数日後に「日



世界に報道されたイクバル少年射殺記事

本の方からのご連絡は初めてです！いつか日本の子どもにも活動の輪が広がることを願っていま

す」という返事が届きました。その時はまだ、中島もまさか自分が、FTCの日本支部を設立するとは思っていませんでしたが、帰国後に子どもの権利擁護の活動に関わる中で、FTCのことを思い出すようになりました。FTCを日本に紹介することで、日



FTC設立当初のメンバー。上段真ん中がクレイグ

本の子どもの権利を知り、権利を奪われている世界の同世代の存在に気づき、考え、その現状を変えようと社会に声をあげ、世界を動かしていく。そんな環境を作れば日本から世界をより良いものにできるのではないかと考えるようになり、フリー・ザ・チルドレンを日本に紹介するかたちで1999年に、フリー・ザ・チルドレン・ジャパンを設立しました。

### フリー・ザ・チルドレンの活動

フリー・ザ・チルドレンのFreeには、二つの意味があります。

- 1 貧困や児童労働から子どもを解放する。
- 2 「子どもには世界を変える力がない」という考えから子どもを解放する。

というもので、この二つの目的を達成するために活動しています。



FTCがインドに建設した小学校

12歳の少年が始めた小さな団体でしたが、今では、世界45カ国にネットワークが広がり、設立依頼100万人もの子どもが活動に参加しました。そして、結果として途上国に650もの学校建設（修繕も含む）を行うことができ、途上国の子ども8万5千人が教育を受けられるようになりました。また、FTCの働きかけなどにより、カナダ政府では児童労働廃絶のための基金が設立されるなどしました。そして、毎年9月には「We Day」というイベントが4年前から開催されており、「Kids Can Change the World」というメッセージを参加者の子どもに伝え、エンパワーする内容となっており、なんと4万人もの子どもがこのイベントに参加するまでになっています。

## ■ 日本での活動

一方、日本では、1999年の設立以来、徐々に活動の輪が全国に広がり、10年間で国内の子ども約1,200人がメンバーとして活動を行ってきました。地方にも、子どもが立ち上げた支部があり、岩手、大阪、熊本にも活動が広がっています。当団体では、子どもの主体性を大事にしており、子どもが世界のためにできることを考え、プロジェクトを企画し、実践していきます。大人は、それらの活動のサポートをしています。具体的には、フィリピンやインド、モンゴルの貧困層の子どもへの教育支援、演劇を通じた児童労働の現状を伝える活動、支援先の訪問（スタディーツアー）、児童労働という問題を多くの人々に伝えるための渋谷でのウォーク、外務大臣や国会議員の方々へ基礎教育支援の拡充をお願いしたりと、様々な活動を子どもたちが行っています。また、最近の活



児童労働ネットワークで集めた署名を、小宮山厚生労働副大臣に渡す子どもメンバー



チョコレートのパッキングをする子どもメンバー

動としてはチョコレートプロジェクトという取り組みも行っています。これは、千鳥屋という菓子メーカーから、チョコレートを提供頂き、このチョコを販売し資金を集めるというプロジェクトですが、価格設定やデザイン、どうやって利益を出すか、どこで販売するかということすべて子どもメンバーで考えています。このチョコの4月以降の売り上げは、3月11日に発生した東日本大震災の支援のために、赤十字に寄付することになっています。

## ■ これからの活動

私たちフリー・ザ・チルドレン・ジャパンは、子どもが解決したい問題を見つけたら、子ども自らが立ち上がり、声をあげることができる環境を整えていきたいと思っています。その環境づくりの一つとして、より子ども達が来やすい環境にするために、5月に学校や子どもの多い世田谷区にオフィスを移転しました。世田谷区にも当団体の事業にご協力いただけることとなり、7月には世田谷区の施設で子どもを対象としたワークショップを開催します。今後は、地域の学校や児童館等との連携を深め、地域に根付いた活動を増やし、活動を全国に広げていきたいと考えています。